

第68回 法務省北海道矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール 入賞作品集



どさんこ



刑務所の受刑者や少年院の在院者は、施設の中で外部の専門家の方々のご協力を得て、クラブ活動や矯正教育の時間に、絵画や書道、短歌などの作品づくりに取り組んでいます。北海道矯正管区では、これらの作品を対象として年に1回、コンクールを行っており、各分野で活躍される専門家に審査をしていただいています。作品をとおして、受刑者や在院者のことを知っていただくきっかけになれば幸いです。

・刑事施設

美術部門
(写生画・自由画)
書道部門
ペン書道部門
文芸部門

・少年施設

絵画部門
書道部門
ペン書道部門
文芸部門
(短歌・俳句・詩・作文)

入賞作品等を展示する作品展を毎年開催してします。開催予定は、法務省ホームページ内の「北海道矯正管区フロントページ」に掲載します。



【北海道矯正管区フロントページ】

第一席

絵画部門

(刑事施設)



『初雪』

旭川刑務所 A・Y

点描による描写で細部にわたり、心を込めて描いた努力作です。特に草木を中心に色々な色彩を工夫して制作しており、筆のタッチを生かして時間をかけて描いた努力を評価しますが、遠景の山の描き方に工夫が必要と感じます。

写生画

第二席



『新雪』

旭川刑務所 I・Y

点描による作品で、時間をかけて描いた作品です。雪の表現が少し単調になったのが惜しまれます。遠景と近景の雪の表現にもっと工夫があっても良かったと思います。

総評

写生画は風景、人物、静物等を実際に観察して描く絵画です。従って観察する力と描く描写力が問われます。入賞した作品は、描く技法に優れており色彩も多彩な作品です。一席と二席の作品は共に描く技術力は同等で優劣つけがたい作品でしたが、多彩な色彩で描かれた方を一席としました。

第三席



『幸せのカタチ』

網走刑務所 N・Y

水彩画の見本のようなオーソドックスな作品で、楽しそうな家族の様子が伝わってきます。筆使いや明るい色彩による表現も適確で人物のディテールもありませんが、人物のホワイトが少し目立ち過ぎるので工夫が必要と感しました。

第二席



『鬼若丸の化け鯉退治』
月形刑務所
S・Y
画面全体に迫力があり戦う力強さが伝わってくる作品です。豊かな色彩と人物の表現から作者の意図が感じられます。

第一席



『争いの背景』
網走刑務所
K・Y
オリジナリティな視点と技法により制作した、大変ユニークな作品です。無彩色のグラデーションによる表現が効果的で優れた作品となっています。画面からは色々な背景が浮かばれる秀作です。

第三席



『家族』
函館少年刑務所
A・R
効果的な画面構成であり描いているものが強く伝わってきます。動物、人物、カラス、背景共にしっかり描かれており優れた作品となっております。

総評
出品作品が多く、多彩で充実した作品が多数見られました。この部門は、何を描いても良く、技法も色々と自由に工夫して描けるのが特徴です。従ってバラエティーに富んだユニークな作品を選定しました。入賞した作品はいづれも描く意図に合った形や色彩をしっかりと描いた作品でした。

自由画

書道部門

(刑事施設)

『光明皇后 樂毅論』

旭川刑務所 Y・H

光明皇后『樂毅論』の強固な形勢を存分に捉えた臨書作品です。一画に一点にと漲る気迫に圧倒されます。「字勢雄強」の気韻に感服です。

総評

様々な状況下での書作と察しつつ、今年も半紙にと込められた意を十分に見せていただきました。気迫が最後のひと筆まで注視する作品を上位に選びました。この国の歴史話をひと言、、、、、、多くの困難に直面していた奈良時代、光明皇后のくじけない強い気概がひしひしと伝わる『樂毅論』の臨書作品が国宝として伝わります。皇后が王義之の書に感動し、真剣なまなざしで習い更に熱い熱い共養の心で書写したと言われます。「気韻生動」の傑作です。私達も、一点一画の積み重ねを大切に心を込めて次回へと書き続けましょう。「一筆入魂」です。

第一席

不幸之變世所不圖
於垂成時運固然

悠山作

『冬夜讀書示子聿』

札幌刑務支所 S・R

中国南宋時代の詩人陸放翁の詩文を三行立てにした半切れ作品です。静かな世界の中を願う詩文が穏やかな運筆で語ります。落款が上手に収まりました。

第二席

古人學問無遺力少壯工夫老
始成紙上得來終覺淺絕知此
事要躬行

陸放翁詩

冬夜讀書示子聿

第三席

我慢

『自分に必要な事』

月形刑務支所 M・Y

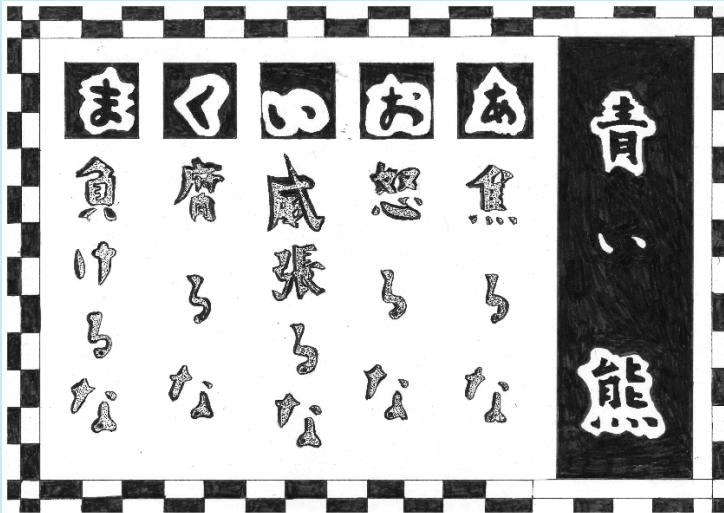
一文字の存在感に注目です。一点一画に自己主張の強弱さが表出しています。縦画に見る気骨のある線を更に横画にも出せますように、、、。

第一席

『青い熊』

札幌刑務所 T・K

あせるな、おこるな、いばるな、くさるな、まけるな、の頭文字を取り「あおいくま」青い熊とのタイトルにした。漢字とひら仮名とのバランス、デザイン化した画面の豊かさに注目しました。良い人生訓です。

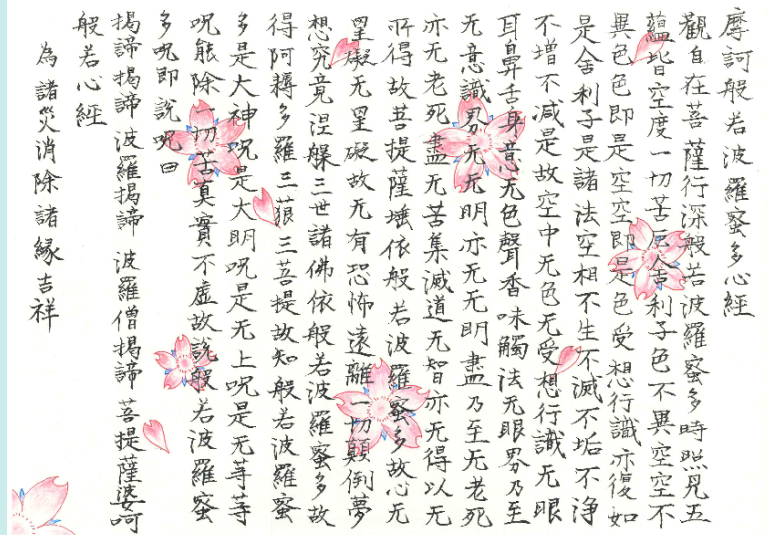


第二席

『般若心経』

網走刑務所 I・T

般若心経の一字、一字の一点一画にも清楚な気が満ち満ちた写経です。筆ペンの扱いも上手く、「諸災削除、吉祥」の終筆へと美しく収めました。散華も見事です。



総評

多彩な表現のペン書道が集まり、その意に（工夫に）圧倒されて審査も悩ましく大変でした。筆記用具も今は様々ありますので、文字数や主張したい言葉を考慮して使い分けると効果が倍増すると思います。和歌や詩などは、細かいペンだけですと弱いので、筆ペンなら強弱の筆圧も加わると思います。行間の変化もつけて、散らし書きをしてみましよう。ペン書道は絵画的にも豊かで表現も多様です。自由自在な作品に挑戦してください。

第三席

『Never give up!』

〜推しから学んだこと〜

函館少年刑務所 N・Y

活字体の中でもあたたか味のあるゴシック体で統一し、大字、小字の變化、青色、赤色の配置と工夫された一作です。自身の「諦めない心」の叫び声が届きます。無駄のない構図に注目です。



書道部門

(少年施設)

第二席

『家族』

北海少年院 S・H

縦画、横画を思いっきり伸び伸びと運び、想いがいっぱいにあふれ出る作品です。線の角度とか太い細いとか形の良し悪しの見方をはるかに抜きん出た書き手の気迫が情(こころ)が直球で伝わります。堂々たる一作です。

感謝

第三席

『七転八起』

紫明女子学院 S・C

どの点画もしっかりと運筆し、形にも丁寧な配分が出来ています。美しく清澄な一作となりました。上段と下段の画数の違いも線の強弱でよく調和させています。

八七 起転

総評

今年も丁寧な作品が多く寄せられました。楷書作品は一面あまりにも慎重すぎて縦横に運けず、オドオドした弱い作品になってしまい残念でした。筆は弾力のある筆記用具です。少しでもたくさん書いて基本を習得してください。「永字八法」として点画の全を習える「永」を何回も何回も練習しましょう。上達の第一歩です。心からの叫びを存分に書いてください。

ペン書道部門

(少年施設)

総評

今の自分と向き合い、様々な葛藤を率直に訴える姿勢に、こちらも直球で受けて見入ります。一枚の作品として提出するとなるとまっさらな紙に配置を考え、一文字の形にも注意するでしょう。一枚では仕上げられず、もう一枚と次第に熱中していく自分に気付きませんか。そうした工程が、時間が、身に浸みていき居住まいが正されると思います。自己反省の言葉もよし、読書して心に響く言葉もよし、写経で心を整えるもよし、、、書いて、書いて、大切にしみじみ書きましょう。

第二席

『愛のカタチ』

北海少年院 O・Y

自己の内なる声をしっかりと噛み締め、丁寧な書きぶりで終始しています。細かに一文字ひと文字の“止め”“払い”と書き整えられて、美しい一作です。一節一節の間隔も、より深まる心の移ろいに感じ入ります。

愛の形とはどんな形なんだろう
寂しがり屋な僕はその答えを求めて
必死に探し苦しんでいた
誰かを傷つけ、罪のない人を巻き込む
それが愛の形の苦がない
僕の思う愛の形はも、と身近にあ、た
そのことに気付けなかつたのは
それを当たり前にしてしま、ていたから
僕を想、てくれる家族、親戚がいること
再び立ち上がり、前進をしようとする
そんな僕に手を差伸べてくれる仲間達
家族と同様に大切な人達
そんな心強い仲間達が僕にはついていて
ただそれだけで僕は幸せになれる
き」とこれこそが僕の思う愛の形だ

絵画部門

(少年施設)



佳作 『1週間寝ていない鳥』
紫明女子学院 K・A



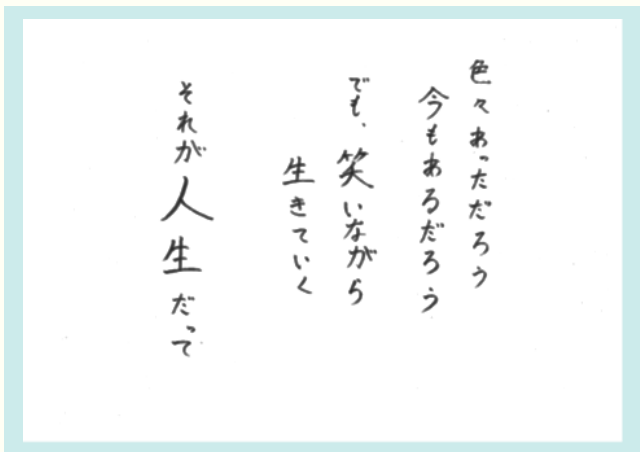
佳作 『かわしえみ』
紫明女子学院 Y・H

総評

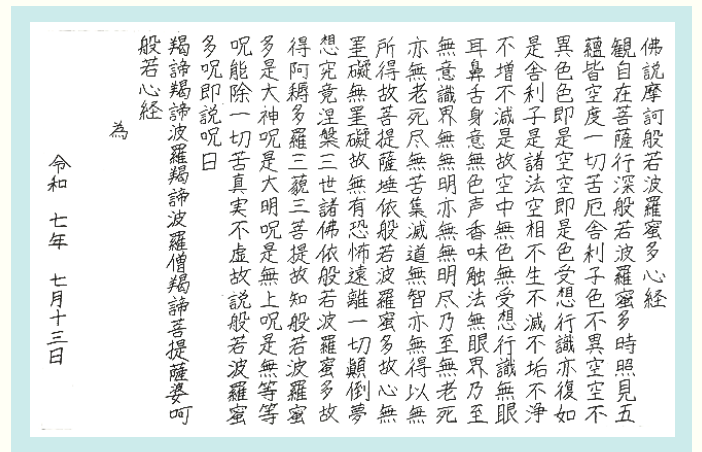
作品数が少なく、入賞に該当する作品がありませんでした。もう少し時間をかけて、密度のある作品を描くよう期待します。佳作の3点は努力賞と云う意味を含めて選びましたが、中心になる鳥と周囲の関係も併せて描いて欲しかったです。



佳作 『Twilight owl』
紫明女子学院 S・H



ペン書道 (少年施設の部) 佳作
『未完成』 北海少年院 I・Y



ペン書道 (少年施設の部) 佳作
『佛説摩訶般若波羅蜜多心經』 北海少年院 K・K

白夏
夜至

書道 (少年施設の部)
佳作 『夏至白夜』
紫明女子学院 S・H

水山
明紫

書道 (少年施設の部)
佳作 『山紫水明』
紫明女子学院 K・A

金浴
魚衣

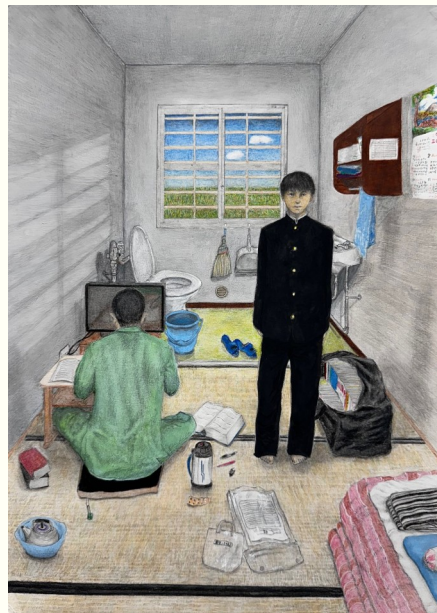
書道 (少年施設の部)
佳作 『浴衣金魚』
紫明女子学院 Y・H

後悔のない
人生を歩もう!

ペン書道 (少年施設の部)
佳作 『無題』
北海少年院 H・T



自由画 佳作
『天笠徳兵衛』 函館少年刑務所 K・M



写生画 佳作
『单独室の私と息子』 札幌刑務所 O・M



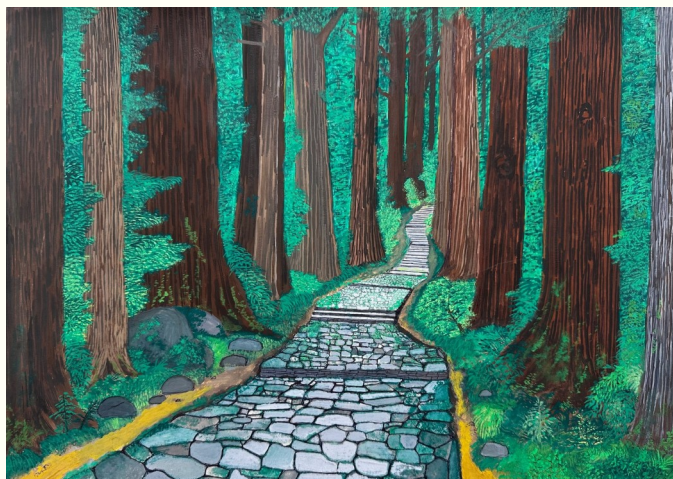
自由画 佳作
『金剛力士阿形』 旭川刑務所 T・T



写生画 佳作
『8枚の写真』 帯広刑務所 S・K



自由画 佳作
『また、背が伸びたな〜』 札幌刑務支所 S・R



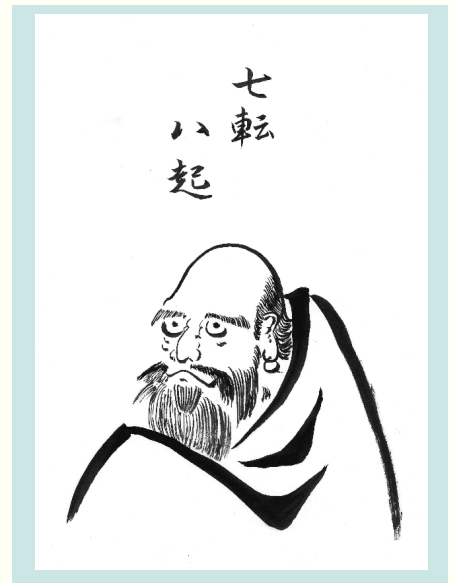
写生画 佳作
『熊野古道馬越峠（三重県紀比町）』
旭川刑務所 Y・H



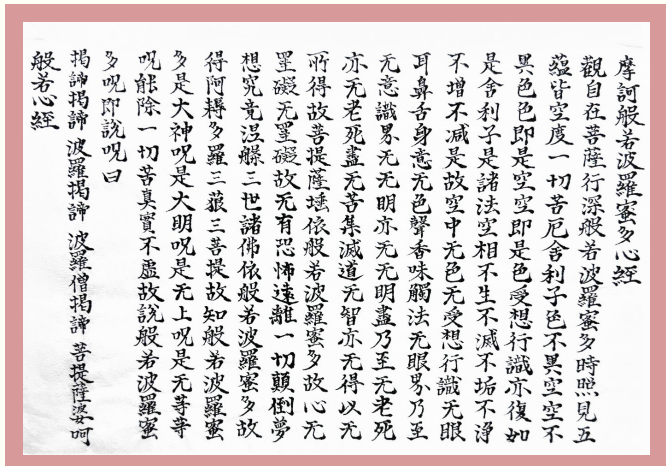
書道（刑事施設の部） 佳作
『空山不見人』
網走刑務所 N・Y



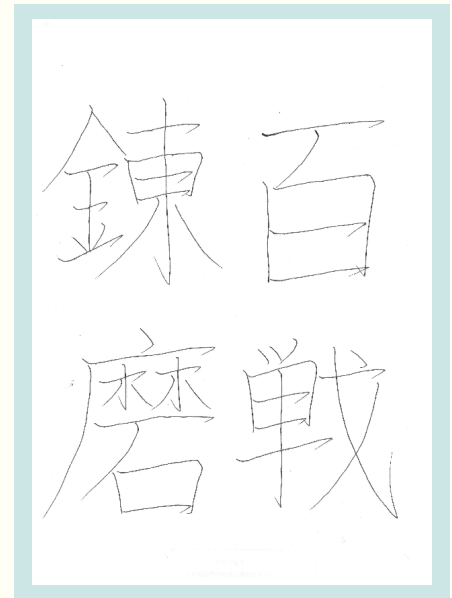
書道（刑事施設の部） 佳作
『ころろざし』
帯広刑務所 G・Y



ペン書道（刑事施設の部） 佳作
『七転八起と達磨大師』
旭川刑務所 Y・H



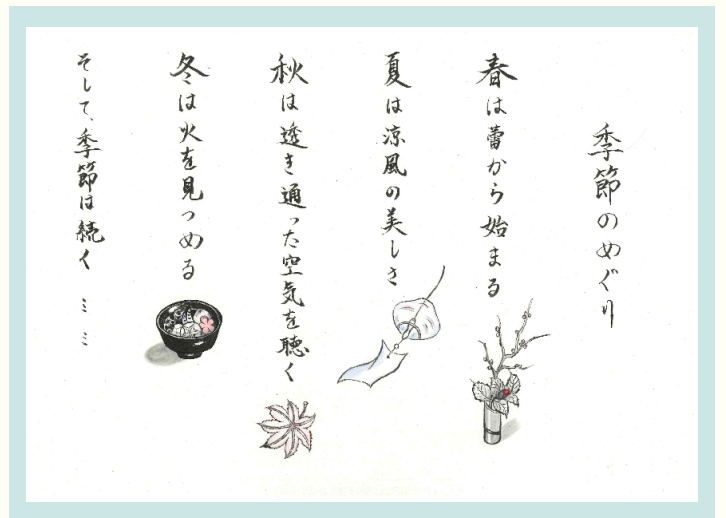
書道（刑事施設の部） 佳作
『般若心経』 網走刑務所 T・E



ペン書道（刑事施設の部） 佳作
『百戦錬磨』 釧路刑務支所 K・R



令和6年度の入賞作品展の様子(札幌駅前通地下広場 チ・カ・ホ)



ペン書道（刑事施設の部） 佳作
『季節のめぐり』 札幌刑務支所 S・R

短歌

(刑事施設の部・少年施設の部)

刑事施設の部

第一席

亡き母の見慣れし夏のワンピース
着て立つ妹ああおかさ

旭川刑務所 T・S

第二席

人知れず雫を垂らす氷柱かな
寄り添い解かす春でありたい

帯広刑務所 S・K

第三席

昭和歌謡近頃流行り子供とも
同じ話題で距離近くなる

釧路刑務支所 K・M

第一席

亡くなったお母さんのワンピースを着て立っている妹の姿を見
た瞬間に思わず「ああお母さん」と思った。母への懐かしさが
込み上げた何とも言えない瞬間の気持ちから「ああお母さん」に込
められた。見慣れたワンピース、一瞬のうちにそのワンピースを
着ていた当時母の姿が蘇ったことだろう。妹さんもその頃の母親
の年齢に近づいて母親に似てきたのではないだろうか。母への思
慕がしみじみと詠われた。

第二席

春が到来すると雪解けが進み、やはらかな春の日差しに氷柱
も解けてゆく。氷柱から滴る雫の輝きが見えるようである。そし
て、春が人知れず氷柱を解かし雫を垂らすように、自分も人に寄
添い、その人の心を解かすような春のような人でありたいと表白
している。なんと温かい心だろう。このように包み込むような優
しい心を持つ人のまわりにはたくさん人が集まってくるだろう。
春の情景描写から自分の目指す生き方が詠われており、心をほっ
こりさせてくれる。

第三席

昭和から平成を経て、令和の今、若者たちの間で昭和ブーム
が起こっている。昭和時代のレトロな喫茶や町並みが注目されて
いる。そのような時流を家族の関係を通してうまく捉えて詠って
いる。子ども世代が、親が生き抜いてきた時代に興味を持って
くれるのはうれしい。その結果として、具体的に子どもと共通の
話題ができて、親子で思いがけない会話も弾んだのではないだろ
うか。家族団圓の様子を感じさせてくれる。

少年施設の部

第一席

窓開けて美しい月目に入る
夜風とともに届く明るさ

北海道少年院 T・S

第二席

家族とは巡り巡って支え合い
生涯ともに生き抜いていく

北海道少年院 H・T

第三席

証書持つ凍々しくなった君を見て
思わず涙桜舞い散る

北海道少年院 I・Y

第一席

窓を開けてみたら、心地よい風が入ってきて美しいお月様が
見えた。窓を開けることで外の世界がひらけた。夜の風とともに
届いたのは月明かり。窓の内側の部屋にもしっかりと外の世界の風
と月の光が入り、作者はその風と光に浸ったことだろう。窓を開
けるといふ何気ない日常の行為が詩になった。風と明るさを受け
取り、一歩踏み出すことにつながって行きそよよな余韻が残る。

第二席

家族とは何だろうと真剣に問いかけてみた。どんな事があっ
ても最後に必ず支えてくれるのが家族。そして、家族だからこ
そ、その関係は生涯続く。そういう家族の存在に思いをめぐら
せ、家族のありがたさ、そして家族がいるからこそ生き抜いてい
ける強さをあらためて感じた。家族への感謝とともに大切な気づ
きか詠われた。

第三席

証書を受け取るまでの「君」の努力と成長を身近に見てきた
のだろう。ときには励ましたりして、「君」をずっと見守ってい
た。だからこそ「君」の凛々しい凛々しい姿が見られてとてもうれ
しい。「君」が証書を授与されたのは桜の季節。舞い散る桜とも
にその感動が素直に詠われており、あふれる喜びが伝わってく
る。

総評 【刑事施設の部】

今年には作品数が減っており残念であったが、良
い作品がたくさんあり、選歌が大変だった。もう
一つ残念だったのは、誤字脱字や短歌の定型から
はずれているため(若干の字余り字足らずは問題
にならない場合もあるが)、捉えた視点は優れて
いても選ぶことができない作品があったことであ
る。作品の内容は家族のことがとても多く、両親
や子どもへの思いの深さがうかがわれる。また、
友だちの歌も多かった。その他、身の回りのこ
と、思い出、自然、社会のことなどさまざま
テーマに及んだ。今年には戦後80年の年である
が、戦争の歌は少なかった。また世界に目を向け
てガザやウクライナの戦争を詠む歌もなかったも
の、平和を願う歌は詠まれていた。作品を讀ん
でいると、毎日の決まった生活の中で、身の回り
のことに関心をもって短歌を作っている様子が伝
わってくる。短歌の定型は自分の気持ちを表現す
るために寄添ってくるので、まだ作ったことのない
人も、短歌にはむずかしいルールはなく
5・7・5・7・7という31音に言葉を紡いで
いくだけ、そして、短歌を作っていく過程が、自
分の気持ちを客観的に見る手助けをしてくれる。
是非作ってみてほしい。今短歌を作っている人
も、いろいろなテーマでたくさん作ることにチャ
レンジしてほしい。たくさん作ることで、感性も
言葉も磨かれ、作っていて良かったと思うことが
きつことあるはずである。

【少年施設の部】

今年も応募数が少なかったのは残念である。今
年はどの作品も伸びやかで、素直に心情を表現し
ていた。友だちや家族のことが主に詠われてい
た。短歌という定型に助けられて、自分の心情を
客観的に見つめることで、発見や気づきがあった
のではないだろうか。若者の瑞々しい感性から生
まれてくる歌は、同世代の若者には共感を持って
読まれるし、上の世代の読者には若かった頃を振
り返らせてくれる力がある。友だちや家族のこと
から、詠っていくテーマを広げていくと今の社会
にも目を向けた歌も作ることができる。短歌はど
んなテーマをも受け止めてくれるので、さまざま
なテーマにチャレンジしていくと自分の世界はよ
り広がるだろう。若い頃に作った短歌は、振り
返った時に日記のように残るので、たくさん短歌
を作ってみてほしい。

俳句

(刑事施設の部・少年施設の部)

刑事施設の部

第一席

仲間、汗、涙 真紅の優勝旗

旭川刑務所 K・K

第二席

パパ早く 手持ち花火に 吾子の顔

札幌刑務所 T・K

第三席

父歓喜 母のお汁粉 栗南瓜

函館少年刑務所 H・H

第一席 練習から数えたら何度涙を流したことだろうか。みんな仲間があつてこそ。汗と涙の優勝旗を勝ち取ったことは、一生の宝なのだ。仲間、汗、涙の区切り点は俳句では使えません。

第二席 パパ早く！早く！！の音が聞こえてくる。子供に期待されるパパの歡ぶ気持ちと真正面からぶつかって来る。小さな歡びが人生を変えてゆく。

第三席 母の手づくりのお汁粉、それは父の大好物な栗南瓜。父のダラーとした顔がクローズアップされる。

少年施設の部

第一席

留置所で 淋しく揺れる こいのぼり

北海少年院 M・K

第二席

愛犬の 夏バテ姿も いとおしい

北海少年院 O・Y

第三席

新年を 家族で迎え 良い気分

北海少年院 S・N

第一席 薫風に乗る泳ぐ鯉が淋しく揺れる。本来水の中を泳ぐ鯉が一寸可笑しい。戦後暫くは大きな竿に父母兄弟の「コイノボリ」が5匹6匹と泳いでいた頃を思う。

第二席 夏バテは人間だけでは無いと云う面白さを感じた作者。他人にも心遣いが出て来ることである。しかもその姿といとおしく思っているのだ。

第三席 進学や就職や何かを家族が揃うことは少なくなった。子供の数も少なくなったが、皆で揃うことは楽しい。祭りも益もなつかしくなった。

総評

【刑事施設の部】

一時より応募の作品がやさしくなった感じがする。母を詠む作品が多く佳句が多かった。もっと自然や草花を詠んで人生を感じさせる作品が出てくることに期待します。

【少年施設の部】

もう少し大勢の方に投句応募して欲しい切なる思い。



令和6年度の入賞作品展の様子(札幌駅前通地下広場 チ・カ・ホ)

第一席（少年施設の部）

ありがとう

北海少年院 I・H

おれは日々楽をして生活していた
何も考えずに周りを気にせずただ
おれだけの幸せを求め
親を裏切り他人を傷つけ幸せを奪ってきた
幾度もおれの幸せの為頭を下げてきた親
裏切っては平気な顔するおれを
見捨てようとしなかった
おれが親でも余所の親でも見捨ててらるだろうと
毎夜考える就寝時
おれの帰りを待ってくれていた
そんなこと有り得ると思っていなかった
当たり前に帰れる場所があると
考え難いことに気付いた少年院
おれは「ありがとう」の本当の意味を知った
家に帰ったらおれを見捨てなかった親に
まず有り難うと伝え本当の幸せを親に与え
いつか「ありがとう」と言われたい

待つ人がいるということ、帰る場所があるということ。誰でもがそうとは限りません。毎夜の就寝時、自分のために何度も頭を下げた親の姿を思い浮かべる自分。親の思いを想像できる自分は一歩成長した自分です。自分の人生、周りの人の幸福を考え始めた新しい自分です。親への感謝が作品から伝わります。

第二席（少年施設の部）

僕が生まれてきたのは

北海少年院 O・Y

僕の目は、思い出を残せるように
僕の耳は、大切な人の声を聞くために
僕の口は、感謝を言葉にするために
僕の鼻は、花束の香りを嗅ぐために
僕の手は大切な人を守るために
僕の腕は、大切な娘を抱き締めるために
僕の背中は、家族を安心させるために
僕の足は、大切な人の元へいつでも駆け付けられるように
僕の身体は、大切な人を養っていくために
僕の優しさは、誰かを思いやり助けるために
僕の心は、愛を感じ、人を愛するために
僕が生まれてきた理由、それは
大切な家族、支えてくれる人達を幸せにすること

目、耳、口、鼻、手……自分の体の全てに、自分の生まれてきた意味を捉えなおそうとする意志が一つの形式とリズムに乗って表現されています。最後の数行から、自分の全ては自分の家族や支えてくれた人たちの幸福のため、という明確な思い、心に期する思いがにじみ出ています。

第三席（少年施設の部）

家族

北海少年院 H・T

家族愛とは生涯一生、自分の味方でい続けることである。非行をしてしまったあわれな自分をそれでも愛してくれる。なぜ今まで当たり前だったことに気付けなかったのだろう。これからもここでの生活を経ているいろいろなことに気付けてもらおうだろうに。

家族の愛情の深さは日常生活の中ではなかなか気づけないものです。環境が変わってはじめて気づいた家族の愛情。それを自分の言葉で表現できたということ。それは大切な成長のあかしです。短い表現の中に、純粋な思いと内容がまついていて共感を呼びます。



令和6年度の入賞作品展の様子
(札幌駅前通地下広場 チ・カ・ホ)

総評
俳句をつくること、日常の中でふと感じた特別な思い、気づきを題材にすることがあります。短い形式でつくるので四苦八苦します。しかし、思いや気づきをうまく表現できたと思ったとき、ほっとします。
詩を書くということは、まず何らかの思いがあり、心のどこかに表現を求めている何かがあるのだと思います。書かなければ失われてしまう、という危機感。大げさではありませんが、詩を書くことで、自分の思いが明らかになるならば、書き手にとっても、読み手にとっても、心地良いものです。言葉を選び、思いを表現することはなかなか大変です。自由に伸び伸びと書くのもよいでしょう。また、自分自身が納得するまで何度も書き直すのもよいことです。そうして出来上がった作品は、自分の個性であり、新しい自分です。今を見つめ、未来を思う新しい自分です。

随筆（刑事施設の部）

	作 者	タイトル	講 評
第一席	旭川刑務所 Y・H	西行の歌と受刑者の心情	人と自然、そして仏の教えを伴侶に歌を詠んだ西行。彼の歌に自らの心情を託し、向上の道を歩もうとする読み手の意志が伝わって来ます。
第二席	旭川刑務所 H・Y	やっと見つけた幸	日々の営みに、けん怠を覚えるあなたが、親を敬い、親に尽くす。このことに行きついたあなた。大きな飛躍といえましょう。思いやりがあり、親切な心は頑なな気持ちを溶解する立派な力になります。
第三席	札幌刑務所 T・K	人の命を預かる	表現形式は随筆です。が、叙述の展開内容はドラマのようです。偏に描写表現力のすばらしさ巧みさです。終結部分、上司の方の所為も又申し分ない計らいですね。

今年度令和7年文芸コンクール随筆部門には、道内6施設より16点に及び作品が寄せられました。様々な視点から、それぞれの思いが文章化され、読み手にとって、新たな感動を覚えました。僧西行の歌に託して、自己を凝視し自己向上の指針にしようと努める文章。又、日々の営みにけん怠を覚える中で、行きついた家族、肉親への思愛、描写表現力の巧みさ、工夫された展開内容等々、随筆という表現形式の新たな展開に接することができました。

読書感想文（刑事施設の部）

	作 者	タイトル	講 評
第一席	釧路刑務支所 O・H	自省録	この若者は、世に哲人皇帝と伝えられ。古代ローマ五賢貞の一人です。作品は、ストア哲学の神髄と申しても過言ではありません。限られた状況下で手にされたこの作品。再生の道を歩ませるあなたに、貴重な糧となりますよう願っております。
第二席	札幌刑務支所 K・M	『ライ麦畑でつかまえて』を読んで	主人公H・コールフィールドは不安定な姿勢のまま、大人の世界を垣間見ようとする高校生である。大人の世界におう悩める主人公の姿を見詰め続けるあなたの叙述には素晴らしいものがあります。
第三席	札幌刑務支所 I・C	『新 13歳のハローワーク』で働き方改革	働く環境も一頃と比べ、随分変わって来ています。就職難ははるかに遠く、今では人手不足が大きな話題です。仕事を求める側の熱意と雇う側の公平な評価こそ、今求められている

今年度令和7年文芸コンクール読書感想文部門には、道内7施設から23点に及び作品が寄せられました。基本は、本と直接対話することです。読んで感想文に書き上げるとなると、手段でだてが用意されなければなりません。則ち、構造化ということです。簡単に申しますと作品の組み立てです。登場人物、事柄、背景、内容によっては季節、天候、場所、時刻等に注意して読むことです。今回特にたたいたいのは、ストア哲学の神髄ともいえるマルクル・A.アントニウス著『自省録』を手にした感想、又1950年代アメリカの作家サリンジャー著『ライ麦畑でつかまえて』等々、私の青春時代を彷彿とさせる作品に出会えたことも有益でした。

作文（少年施設の部）

	作 者	タイトル	講 評
第一席	北海少年院 T・S	家族	「自分に負けるな！」祖父の手紙の言葉を胸に、日々頑張る姿が伝わってきます。母親の涙、家族の温かい言葉など、その時々自分を思い出しながら、素直に自分を振り返っています。家族の明るい笑顔を求めて具体的な目標ができました。目標に向かって歩み続ける今、自分に負けない確かな人生が始まっています。

「書くことは生きること」という人がいます。その意味は、書くことを通して、自分に向き合うとき、自分だけではなく自分とかかわる様々な人が見えてきます。生きるとは人とかわることだからです。作文や詩の中にしばしば登場する「家族」は特別な存在です。自分が最も大変なときに家族のありがたみに気づくならば、それはとてもよいことです。一方、近い存在ゆえに家族とよくない関係になることも時々あります。「書くことは生きること」のもう一つの意味は、書くことを通して、自分はどう生きてきたのか、これからどう生きていくのかを考えることができるということです。書くことで見えてきた「なりたい自分」は本物です。書いている自分を見つめるもう一人の自分がいます。その自分の前ではウソは書けません。書くことで鍛えた自分の心は、自立を助け、将来の自分につながっていきます。人生は、喜びや楽しさも多いが、迷いや悩みもあります。迷ったり悩んだりしたとき、「書くこと」で鍛えた自分が、自分を客観的に考える力を発揮させてより良い判断の後押しをしてくれることを信じます。



令和6年度の入賞作品展の様子
(札幌駅前通地下広場 チ・カホ)



法務省矯正局
ホームページ

矯正施設（刑事施設（刑務所、拘置所）や少年施設（少年院、少年鑑別所））に関する様々な情報を掲載しています！



法務省矯正局
公式X

矯正職員の採用試験について知りたい方はこちらへ！



法務省公式
YouTube

法務省の施策などについて、動画で紹介しています！



矯正職員
採用ページ

矯正施設の取り組みやイベント情報などを発信しています！

第68回 法務省北海道矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール 入賞作品集

令和8年2月 発 行

編集・発行 北海道矯正管区少年矯正部

発 行 所 札幌市東区東苗穂1-2-5-5

TEL 011(783)5063

FAX 011(780)2207
